

発見! 蒲郡の魅力にスポット  
特別版 がまごおり 蒲郡市×映画「ゾッキ」座談会

## ロケ地誘致とともに考える託児支援



〈映画「ゾッキ」プロデューサー〉

**伊藤主税** さん

〈がまごおり児童館長〉

**榎本友美** さん

〈市ファミリー・サポート・センター〉

**宮崎秀乃** さん

〈市観光商工課シティセールス推進室〉

**来本晃彩** さん

映画業界では、出産・子育てをしながら仕事を続けていくことが難しい環境にあります。そんな環境を変えたいと齋藤工監督が願い、今回蒲郡市がファミリー・サポート・センター事業を利用してロケを支援する仕組みを整えました。

**伊藤** 日本の映画の労働環境は、予算が少ないということもあり、限られた期間で撮影をしている状況です。そのため、女性は出産をきっかけに現場に来られなくなってしまい、今まで培ってきた技術を活かせなくなってしまいうケースが多いです。女優さんもお子さんがいることで役を受けられないこともあります。



**宮崎** 子どもを預かることができる方が少ない現状のため、今回のロケのサポートを受け入れるにあたり、不安はありました。しかし、このビックイベントを最大限バックアップしたいと思っていました。

**来本** ファミリー・サポート・センター事業は、子育ての手伝いをする「まかせて会員」、子育てを手伝ってほしい「おねがい会員」、両方を兼ねる「どっちも会員」がありますよね。

**宮崎** はい。今回「ゾッキ」への支援を宣伝させていただいたことで、まかせて会員の登録者が増えました。

**伊藤** 素晴らしい!今回ロケでは利用には至りませんでした。が、「ゾッキ」の演者・スタッフ計3人から問い合わせがありました。蒲郡市の皆さんと多くのことをチャレンジしていることや、素敵な環境でロケができたことに、スタッフを代表して感謝の気持ちでいっぱいです。

**榎本** 「ゾッキ」を通してファミリー・サポート・センターの認知が広がり、登録の応募がきたことが嬉しいことですし、



演者さん・スタッフさんの中に子どもを預けてみたいという方が3人もいたことは非常に大きな1歩だと思います。

**来本** 今回の取り組みを通じて、ロケにやさしいまちとして今後も蒲郡がロケ地に選ばれてほしいです。また、映画業界全体にもこの取り組みが広がり、女性が働きやすい環境になっていくといいですね。